

サポーター体験記 307

大泉の歴史をたどる散策コース

取材日 令和6年2月28日 更新日 令和6年3月25日

おでかけ

大泉学園駅周辺を散歩していると、神社や石碑、小さな祠（ほこら）を見かけることがあり、この土地の歴史に興味が湧いてきました。そこで、「ねりまのねり歩きガイドの会」の区民ガイド、夏井清子さんに案内をお願いし、大泉の歴史をたどる約2.5kmのコースを歩いてきました。23区唯一の牧場、小泉牧場で伺った貴重なお話も必読です！



ねりまのねり歩きガイドの会 / 小泉牧場

※以下、文中敬称略。

区民ガイド/夏井 清子（なつみ きよこ）さん

小泉牧場/小泉 與七（こいずみ よしち）さん

「大泉学園駅」の駅名の由来とは？

散策のスタート地点は、西武池袋線大泉学園駅。さっそく大泉学園駅の歴史について聞いてみました。



「ねりまのねり歩きガイドの会」の区民ガイド、夏井清子さん。生まれも育ちも大泉で地元愛にあふれています！

――大泉学園駅はいつ開業したのですか？

夏井「大泉学園駅ができたのは、大正13年（1924年）です。所在地の住所にちなんで、当初は『東大泉駅』という駅名でした。周りは雑木林ばかりで、何にもないところにポツンと駅舎が建っていたそうです。その頃、大正12年（1923年）の関東大震災で甚大な被害を受けた東京商科大学（現：一橋大学）が、一時的に石神井に予科の仮校舎を建ててしのいでいたことから、大泉に大学を誘致し、学園都市として宅地開発を行う計画が進められました。しかし、大学の誘致は、結局実現せず…。『学園』の名称だけが残り、昭和8年（1933年）に『大泉学園駅』と改称されました」



大泉学園駅北口のペDESTリアンデッキにある「大泉アニメゲート」にて

――アニメキャラクターの像が並ぶ「大泉アニメゲート」は、アニメのまち・練馬ならではのですね！

夏井「ここに並んでいるのは、練馬区ゆかりの4種類のアニメの等身大キャラクターたち。『鉄腕アトム』のアトム、『あしたのジョー』の矢吹丈、『銀河鉄道999』のメーテルと星野鉄郎、『うる星やつら』のラム、それぞれの作者は練馬区と深い関係があります。また、大泉には日本初の長編アニメーション『白蛇伝』を作った東映アニメーションがあることから、練馬はアニメ発祥の地と言われるようになりました」



北口のバス乗り場近くには、松本零士先生が「銀河鉄道999」を描いた「夢・希望に向かって走る大泉学園駅」のパネルも！

夏井「大泉には、『銀河鉄道999』のメーテル、『うる星やつら』のラム、『あしたのジョー』の矢吹文、『仮面ライダー1号』が描かれたデザインマンホール蓋が4か所に設置されています。それぞれのキャラクターをぜひ探してみてください。駅周辺には2つありますよ！」

住宅街にひっそりと佇む「お松塚の祠（ほこら）」

大泉学園駅北口から西へ歩き、「お松塚の祠」を目指します。

夏井「この道は、大泉から田無方面へつながっているので、通称『大泉田無街道』と呼ばれています。途中で交差しているこの道は、まだ電車が開通していなかった頃は妙福寺へ向かう参道だったんですよ」



「大泉田無街道」と、妙福寺の旧参道が交わるポイント（東大泉4-12付近）。左：この先が妙福寺 右：反対側は西武池袋線の踏切

---朝の散歩コースでいつも見かける小さな祠が気になっていたんです。

夏井「この『お松塚の祠』ですね。明治20年（1887年）4月13日に小美野玉次郎が建てたと刻まれています。もともと別の場所にあったものが、鉄道敷設や道路拡張により、現在の場所に移されました」



南大泉五丁目児童遊園の一角にある「お松塚の祠」(南大泉5-6)

夏井「練馬に伝わる昔話をまとめた『ねりまの昔ばなし』(練馬区教育委員会)に、お松塚の祠の言い伝えが載っているのでご紹介しましょう。昔、松というおばあさんが粗末な小屋に住んでいました。ある時、嫁入り行列が通りかかると、おばあさんが花嫁に躍りかかって美しい着物をずたずたにし、それがもつで破談になってしまいました。このようなことがたびたび起こるため、村人たちは嫁入りの際そこを通らないことにしました。その後、『お松ばあさんは貧乏な家に生まれて苦勞し、お嫁にも行けなかった』という話が広まって同情されるようになり、お松ばあさんが亡くなったあと塚を作って葬ったのだそうです」

知る人ぞ知る!? 大泉の隠れた桜の名所「妙福寺」

お松塚の祠をあとに、暗渠(あんきょ)を歩いて、古刹「西中山 妙福寺」(南大泉5-6-56)へ向かいます。



---妙福寺は、どのくらい古いお寺なのでしょうか？

夏井「嘉祥3年(850年)、平安時代の開山と言われてます。当時は天台宗でしたが、元亨2年(1322年)に日蓮宗に改宗しました。境内は見どころがいっぱいなので、順番に見ていきましょう」

---祖師堂のそばにある像は何でしょうか？

夏井「怒りの説法をする日蓮聖人像です。お寺としては珍しいですね。作者は、長崎の平和祈念像を作った北村西望氏。昭和23年（1948年）にできた平和祈念像は平和の象徴そのものですが、そのあとすぐ作ったこの日蓮聖人像では戦争の愚かさを一喝する怒りを表し、同じように平和への願いを込めています。吉祥寺の井の頭自然文化園彫刻園にはこの像の原型がありますので、機会があったらぜひ見に行ってください」



妙福寺の「日蓮聖人像」

夏井「境内にある庫裡（くり）の天井は、傘（からかさ）造りという珍しい構造なんです。非公開なので見ることはできませんが、その天井には練馬区の指定・登録文化財の駕籠（かご）が提げられています。明治までは、歴代の住職さんがこれに乗ってお出かけされていたようです」

---境内にあるのは桜の木でしょうか。

夏井「枝垂れ桜です。ここは桜の名所なんです」



枝垂れ桜の前で、最盛期の頃の写真を見せてくださる夏井さん

夏井「“鐘”にもぜひ注目してください。本堂の回廊と祖師堂にある2つの小さな半鐘は、令和3年度に練馬区の登録文化財になりました。いずれも江戸時代に造られた貴重なものです。指定文化財の梵鐘は、大晦日に除夜の鐘を突くことができ、人気なんです。わが家も恒例行事になっています」



本堂の回廊にかかる半鐘



除夜の鐘を突ける梵鐘

夏井「本堂の左手に『三十番神社』があります。お寺なのに神社？と不思議に思うかもしれませんが、日蓮宗には、“三十柱の神様が日替わりで人々を守護してくださる”という三十番神の信仰があるのです。江戸末期に作られたものが土支田にあったのですが、戦後、神社が朽ち果て取り壊されることになり、妙福寺へ移されました」



三十番神社を見学するサポーター

白子川沿いを歩いて、旧大泉村役場跡へ

妙福寺をあとに、白子川沿いを歩きながらさらに北へ進んでいきます。

夏井「白子川の水源は、東大泉7丁目にある井頭（いがしら）公園で、新河岸川と合流するまでの約10kmが白子川と呼ばれています。保谷方面に流れる支流は大泉掘（だいせんぼり）と呼ばれ、私が子どもの頃は氾濫することもあったんですよ」



白子川（左）と大泉掘の合流ポイント。大泉掘（右手奥に伸びる道）は現在は暗渠になっています

---大泉中島公園（大泉学園町2-2）の一角に、看板が立っていますね。

夏井「これは旧大泉村役場跡の看板です。江戸時代、練馬区は武蔵国豊島郡の一部でした。明治4年（1871年）の廃藩置県で、この地域にあった小樽（こぐれ）村と橋戸村は、入間県に編入されたのです」



大泉中島公園の前にある「大泉村役場建築記念」の石碑（左）と、第二次世界大戦戦没者の名前が刻まれた「平和祈念之碑」（右）

---その頃ここは東京ではなかったんですね！

夏井「そうなんです。明治22年（1889年）、小樽村と橋戸村が合併して埼玉県新座郡樽橋（くれはし）村となりました。明治24年（1891年）、東京府北豊島郡に編入され、石神井村大字土支田と新倉村長久保を合併して大泉村が誕生しました。のちに村役場がここに建てられたのです」

---なぜ樽橋村が大泉村になったのでしょうか？

夏井「白子川はもともと『小井戸川（こいどがわ）』という名前で、井頭池から水が湧いていたことから、最初は『小泉』と書いて『おいずみ』と読ませ、『小泉村（おいずみむら）』として登記しようとしていました。しかし、それでは紛らわしいということで『大泉村（おいずみむら）』になったそうです」



今も「小泉」の名称が残る、「小泉橋」交差点（西大泉1-2）

夏井「その後、昭和7年（1932年）に板橋区に編入され、今の東大泉、西大泉、南大泉などの地名ができました。そして、昭和22年（1947年）8月1日、板橋区から分離独立し、23区最後の区として練馬区が誕生したのです」

23区唯一の牧場「小泉牧場」で、2代目の小泉與七さんのお話を聞く

大泉中島公園からさらに進むと、小泉牧場に到着。2代目牧場主の小泉與七さんが出迎えてくれました。

---小泉牧場はいつから大泉にあるのでしょうか。



小泉與七さん。現在は3代目の勝さんが牧場を経営しています

小泉「私の父は、豊島区で獣医をしながら酪農をやっていました。ここへ移ってきたのは、昭和10年（1935年）。酪農は水がなければできないので、白子川があって水が豊富で、井戸水が出る環境というのが、ここを選んだ理由だったようです。当時はその日に絞った牛乳はその地域の人たちに飲んでもらうという、そんな時代でした」

---牧場の前の道は「したみち通り」というんですね。

小泉「昔の『したみち通り』は田んぼの真ん中の農道で、埼玉から荷物を運ぶために使っていましたが、カーブが多くて父は苦勞していました。父は戦争に行きましたが、朝霞駐屯地が近いので、この辺りは戦争の爆撃の被害も大きく、家を守る母も大変だったと聞いています。父が戦争から戻ってきたら、牛は軍に取られて1頭もいなかったそうです」



飼っているのは乳牛。地元の学校の子どもたちが総合学習の授業で訪れたり、地元の人たちが見学に来たり。大学の実習生の受け入れもしています

---現在、牛は何頭育てているのですか？

小泉「以前は50頭いましたが、その数は減ってきています。昨今のウクライナ情勢の影響で飼料が高騰したため25頭に減らし、土地の半分をホスピスの施設にしました」



牛舎のすぐ横で取材。左手の建物がホスピス施設です

---これまで牧場を守ってこられた小泉さんのご苦労には頭が下がります。

小泉「最初は苦労しましたが、風向きが変わったのは、平成14年（2002年）に小学校で総合学習が施行されてから。地元にある東京学芸大学附属小学校の先生から授業の一環として見学の依頼があり、その後、近隣の区立小学校も見学に来るようになりました。その時の子どもたちが大人になり、自分の子どもを連れて牧場に来ると声をかけてくれて…。それは何ものにも代えがたく、本当にやってよかったと思います」

---メッセージを一言お願いします。

小泉「生まれたばかりの仔牛を見ると、みなさん『可愛い』と言います。でも、ただ可愛いというだけではなく、牛乳を搾るには、母牛を妊娠させて出産させなければならぬということを忘れないでほしいです。また、誰にでもそれぞれの歴史があって、良い時もあれば悪い時もある。皆さん、苦労もしてきていますが、私の場合は晩年になってようやく好転してきましたね」

---貴重なお話をありがとうございました。

「ファーマーズショップ「こぐれ村」は、23区初のJA販売所

小泉牧場からさらに白子川沿いを歩き、「ファーマーズショップ こぐれ村」（大泉学園町2-12-17）へ。

夏井「JA東京あおば大泉支店に併設している『こぐれ村』の名称は、先ほどお話しした小樽村にちなんでいます。ここは、平成6年（1994年）に23区初のJA農産物販売所としてオープンしました。朝採れの野菜や加工品、園芸品や植木などを販売しています。令和5年（2023年）12月に改装してきれいになりました」



ファーマーズショップ「こぐれ村」。取材日は、残念ながら定休日（水曜）でした

今回の散策コースは、約2.5km。大泉学園駅→大泉田無街道→お松塚の祠→妙福寺→白子川→旧大泉村役場跡→小泉牧場→したみち通り→JA東京あおば「こぐれ村」を歩きました。



今回訪れたスポットとコース

夏井『『ねりまのねり歩きガイドの会』では、区内のさまざまなエリアの「ねり歩き」コースを月に2回ほど企画していますので、ぜひ参加してみてください。ねりま区報などで告知しています。区民ガイドも募集中です!」

ガイドさんに解説していただくと地元の知識がより深まり、新しい発見もたくさんあって、歴史散策の楽しさを満喫した1日でした。

ふだん何気なく歩いている道でも、歴史や地理を知って注意深く観察すると、景色が変わって見えるかもしれませんよ!

サポーターの取材後記

とっとり君

私が日頃歩いている散策コースを、ガイドの夏井さんはすこぶる詳しく調べ上げてくださり、楽しいミニ歴史散策となった。「お松塚の祠」で、お松さんという人が悪女であったことが意外であり、後世になって崇められたというのも不思議で仕方がない。練馬の古刹、妙福寺にも歴史や逸話がたくさんあり、お参りしたあとは白子川沿いに歩いて「したみち通り」に出る。ここはお百姓さんが通る農道であり、川越街道はお上が歩く「うえみち通り」というワケである。この一角に、都内唯一の牧場、小泉牧場がある。オーナーの小泉與七さんは、練馬の名士とも言われ、お話も達者でつい聞き惚れてしまう。25頭の乳牛がいて、今では小中高大学生らの教育実習の場にもなっているが、孫の4代目は継いでくれないだろうと寂しく言う。「こそぐれ村」ではJAあおば東京の農産物や加工品、園芸品などを買うことができる。昔、大泉一帯は、水の豊富な場所で、小樽村と言ったそうだ。

草笛のけん

練馬に30年近く住んでいるが、大泉学園駅北側はほとんど知らないし、行ったことがない。時代と共に現在の練馬の地名、行政区が変遷。東京23区の中でも練馬区が一番新しい区ということを知り、誇らしくなった。まず、松本零士さんのアニメ、特にマンホールの蓋の2か所のアニメを見てビックリ。嘉祥3年(850年)に慈覚大師円仁によって創建された天台宗の妙福寺は、1322年日蓮宗に改宗し、地域の人々の生活の支えだと聞いてビックリ。「誰でもできることを誰もできない位やる」(響語)を見つけ、安易に流れがちな自分の心に刻みこんだ。最後は、住宅地の中にある23区唯一の小泉牧場で第2代目小泉興七さんの熱い酪農への思いに感動。ロシアのウクライナ侵攻で飼料の入手が難しくなり、約50頭いた牛が25頭に減少したお話をビックリ。少子高齢化や戦争の影響が我々の身近な生活に波及していることを実感。ねり歩きガイドの会の夏井さんの名ガイドで、勉強家のサポーター記者と共に楽しく大泉地区を取材できたことに感謝いたします。万歩計で9,000歩を超えていました。

ミスターヒワダ

今回の取材は、大泉の歴史散策のまち歩きで、地元の夏井さんの案内にて巡りました。当日は好天に恵まれましたが、少々風が強かったです。近代的な都会の大泉学園駅を出るとすぐに農地がある、そんなギャップがあるのが練馬です。西暦850年創建の歴史ある妙福寺は桜の名所というので、今度あらためて訪れてみようと思います。大泉は水に恵まれています。だから、人々が集まり、酪農家の方まで移住しているのです。身近な地元で様々な発見がありました。地元を見直すよききっかけになったと思います。

サポーター紹介▶

おすすめの体験記



「人生が変わるかも!？」お芝居と一緒に観ませんか
～ねりま演劇を観る会の熱い思い～

© 2023年7月25日



世代を超えた地域のあそび場「こどもの森」に行っ
てみませんか?

© 2023年8月10日



としまえん跡地に唯一残る「古城の塔」の97年の歴史
をひもとく!

© 2023年8月10日

シェアする

ツイートする



PDF形式のファイルを開くには、Adobe Acrobat Reader が必要です。お持ちでない方は、Adobe社から無償でダウンロードできます。

[Adobe Acrobat Readerダウンロード](#)

シニアナビねりま

練馬区高齢社会対策課 いきがい係
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6-12-1
03-5984-4763 (直通)

※受付時間：午前9時～午後5時（土日祝日、年末年始を除く）

サイトマップ

[トップページ](#)

イベント

- [今月のイベント](#)
- [来月のイベント](#)

サポーター体験記

- [体験記](#)
- [サポーター紹介](#)
- [OB・OG徒然記](#)

サークル・サービス団体

- [サークル一覧](#)
- [サービス団体一覧](#)

ボランティア情報

- [募集中のボランティア](#)
- [ボランティアについて調べる](#)

地域から探す

- [練馬地区](#)
- [石神井地区](#)
- [大泉地区](#)
- [光が丘地区](#)

ナビ通信

お知らせ

各種お申込み

- [新規団体申込](#)
- [イベント掲載依頼](#)
- [お知らせ掲載依頼](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [ご意見・ご要望](#)
- [バナー広告掲載について](#)

ご相談窓口

- 各種相談窓口
- シニアナビねりまについて
- よくある質問
- 老人クラブ情報
- ご家族の方へ

個人情報について・免責事項